

ECO & CSR Navi

Ecology &
Corporate Social Responsibility
Navigation

2018



CONTENTS

『エコ&社会活動情報誌』について

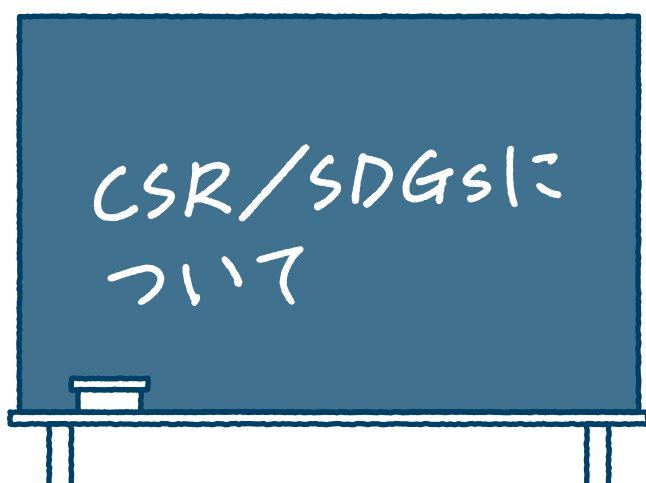
企業の社会的活動について

報告書の活用方法

CSR TOPICS ～企業の取り組みをみてみよう～

用語集

エコ & 社会活動情報誌



本誌は、生活者であるわたしたちが、
企業や団体の社会活動(CSR/DSGs)を知り、お互いが理解を深め、
持続可能な社会づくりの一助となるよう創刊されました。

CSRとは？

CSR^{※1}とは、企業の社会的責任のことです。企業や団体は、社会の一員として社会的責任を負っており、法律や倫理を遵守し、ステークホルダー(利害関係者)の多様な要求に適切な対応をすることが求められています。

2011年11月、組織の社会的責任に関する国際規格ISO26000が発効され、企業統治・人権・労働慣行・環境・公正な事業慣行・消費者に関する課題・コミュニティ及び開発の、七つの中核主題が掲げられました。組織が社会の中で存在していくための姿勢や、具体的な活動内容は、毎年発行される報告書で知ることができます。



SDGsとは？

SDGs^{※2}とは、17の目標と169のターゲットで構成される「持続可能な開発目標」のことです。

2015年9月、全193の国連加盟国が、より良き将来を実現するため「アジェンダ2030」を採択しました。この計画がSDGsで、世界各国から寄せられた意見を広く取り入れており、全世界が取り組むことで『誰も取り残されない』社会を実現しようとする壮大なチャレンジです。

対象は主に政府ですが、幅広い分野の企業・団体も巻き込み、持続可能な成長を実現する共通の枠組みのもと、目標の達成に向けて活動を推進しています。



※1 CSR(Corporate Social Responsibility) ※2 SDGs(Sustainable Development Goals)
※ 社会的責任(SR Social Responsibility)

企業の社会的活動について



あなたは「エコ」を意識して生活していますか？
身近な例では、資源化のためのごみ分別などがあります。
実は企業も、様々なことに取り組んでいるのです。

社会活動の必要性とは

いまや地球の脅威となっている環境問題や、日本はもちろん、世界中で発生している社会的問題。それらを解決する力ギが、企業・団体の社会的活動（CSR）にあります。

企業・団体は、長い目でみれば、社会的な評価なしに利益をあげることができず、サステナブル（持続可能）な存在たりえません。極論ですが、企業がなくなっても社会はなくならないのです。故に、企業価値を高め、社会の一員としての責任を果たし、生活者に支持され社会に認められることが必要なのです。

そうした一連の活動により社会的評価が上がることで、主力事業による安定的な収益の確保や、投資や融資などによる資金調達の円滑化に結びつき、サステナブルな存在になっていきます。企業・団体がCSR活動に力を入れる理由はそこにあるのです。

生活者としてのわたしたちの行動は？

社会的な問題に対して「なんとかしたい!」と思った時、わたしたちはどうすればよいでしょうか。ボランティア活動や、NPO・NGO 団体に参加するという方法もありますが、実はもっと簡単な方法があります。それは、企業・団体のCSR活動を応援することです。

「応援したい!」と思う企業の商品を積極的に購入する、企業・団体の社会活動に対して意見・感想を伝える、などの方法があります。

一見些細なことに感じられますが、それが社会を変える一歩となります。生活者の声が集まれば集まるほど大きな力となり、身近な環境問題、社会問題を解決する手立てとなるのです。

活動を知るためには

企業・団体の社会的な取り組みを知る恰好の資料が、統合報告書や社会・環境報告書、CSR 報告書などと呼ばれるものです。冊子で配布されていることも、Web のみで公開されている場合もあります。私たちが運営している「CSR 図書館・net」には、664 社約4200冊の報告書が掲載されています。PDF で読むことも、実物を取り寄せることもできますので、ぜひ活用ください。



国内の取り組み状況は？

日本国内では、政府・外務省がSDGs推進の旗振り役となり、団体・企業の取り組みを応援しています（首相官邸・外務省サイト参照）。一方、日本の国連広報センターでは、吉本興業と協力し、SDGsの普及に努めています（国連広報センターサイト参照）。これからどんどん、社会での知名度があがっていくSDGs、TVやWEB、雑誌などでも露出が多くなるので、知っておくと世の中の流れがわかって面白くなります。

首相官邸



外務省



国連広報センター



報告書の読み方



報告書には、企業の社会的な取り組みがまとめてあります。
具体的な活動内容や実績のほか、取り組む姿勢など、
企業の意外な一面を知ることができます。まずは手に取ってみましょう。

報告書の構成について

報告書の多くは、社会面・環境面というように大きく構成が分けられており、さらに様々なステークホルダー（利害関係者）ごとに取り組みを記載する方法がとられています。他に、企業独自の視点として、重点課題への取り組みやISO26000の「7つの中核課題」に基づいた紙面構成、SDGsの目標に則って構成するなど、企業によってオリジナリティがあります。

冊子の後半には、第三者意見や第三者監査などが掲載されていますが、



コンテンツについて

これらは報告書の客観性を担保するためで、その企業を客観的にみることで、有識者などが寄稿しています。

まずは下表を見てください。ご覧のように、掲載される内容は報告書の種類によって違います。実際の報告書の目次を見ると、この表にある項目が記載されていると思います。中でも、CSR理念やサステナビリティについての考え方、活動方針、重点課題、トップメッセージなどはCSR活動全体を総括するものです。それらに続いて、社会・環境への具体的な取り組みが紹介されています。前半には読者にとって興味深い内容が「特集」という解りやすい形で掲載されている場合があるので、こういった比較的阅读しやすいコンテンツから読んでみるのもおすすめです。

報告書はこう読もう

報告書には専門用語が多く、読みにくいと感じるかもしれません。最近では「ダイジェスト版」として報告内容を限定して発行するケースが増

主な報告書の種類	掲載される主な内容	参考とされる主なガイドライン
環境報告書	環境マネジメント、Input・Output、グリーン調達、目標と結果、環境パフォーマンスデータ、生物多様性、環境会計ほか	環境省「環境報告ガイドライン」
社会・環境報告書	環境報告書の内容に以下をプラス。トップ・コミットメント、ステークホルダー図、社会性報告、第三者意見ほか	環境省「環境報告ガイドライン」 GRIガイドライン
CSR報告書	社会・環境報告書に以下の内容をプラス。CSRマネジメント、重点課題、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメント、ダイバーシティ、ステークホルダーダイアログ、経済性の報告ほか	環境省「環境報告ガイドライン」 GRIガイドライン ISO26000
サステナビリティ報告書	CSR報告書と内容はほぼ同じ。CSRを推進し、サステナブル（持続可能）な企業をめざす	環境省「環境報告ガイドライン」 GRIガイドライン ISO26000
統合報告書	CSR報告書の内容に財務報告（アニュアルレポートのコンテンツ）をプラス	環境省「環境報告ガイドライン」 GRIガイドライン ISO26000



えていますので、まずはこちらを読んでみると良いでしょう。データ集や取り組みの具体例が省かれ、ページを限定することで読みやすい形になっています。

また、全部を読まず、特集や興味のある部分だけを読み、他社と比較するという方法もあります。特におすすめたのは、トップメッセージ(トップコミットメント)です。企業のめざす方向性が端的に理解できます。

興味が出てきたら、ダイジェスト版だけでなく、企業Webサイトや報告書の総合版(マスター版)を読むとさらに理解が深まります。活動の方向性に合致するデータや、具体的な取り組み例が多く記載されているからです。

馴染みのない内容が多く、読み進めるのに時間がかかるかもしれません。が、まず1冊をじっくり読んでみると、2冊目以降は時間をかけずに読めるはずです。

巻頭ページ



編集方針や参考にしたガイドライン、制作にあたり重視した点や報告書の概要などが書かれています。はじめにこのページに目を通しておくと、その企業が読者に対して何をどう伝えたいのかがわかり、読み進めやすくなります。

トッポメッセージ



経営的観点から、社会的活動を含む企業活動への姿勢を読み取ることができます。なお、企業理念やトップメッセージ(トップコミットメント)、重点課題(マテリアリティ)、CSRマネジメント等は密接に結びついています。その関連性を読みとくと、企業の社会的活動の方向性が理解できます。

特集ページ



様々な活動のなかで、企業が特に力を入れている内容や理解してもらいやすい内容を取り上げています。写真や図表などが多く読みやすいページになっているので、初めて読む方は、まずはここから読むとわかりやすいのでおすすめです。

对照表・第三者意見

ISO26000 中核主題対照表

第三者意見

中核主題とOASISのグループ・プロセスを対照させ、第三者のOASISレポートを参照せよ。また、2013年12月20日の最新版に追加された項目、追加変更事項を参照せよ。また、27,278, 147, 148の注記に留意せよ。

H.1.5.のOASISレポートを拝読して

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

第三者意見

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

第三者意見をうけて

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

本表のグループ・オアサスレポートを参照せよ。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。OASISのグループ・オアサスレポートは、OASISのウェブサイト（http://www.oasis.or.jp/）に掲載されている。

代表者

2013年12月20日現在

ISO26000 中核主題対照表

対照表は、その報告書が準拠したガイドラインに基づいて、その指標に該当するページがどこなのかを対照している表です。対照表を掲載することにより、該当ガイドラインへの準拠を担保します。第三者意見は、その企業の業界に精通している大学教授やNPO法人など、社外の有識者が報告書を読み、客観的な視点から活動の良い点や課題を提示しているものです。複数の視点により、活動自体を広い視野で捉えるのに役立ちます。

報告書の 活用方法

報告書は読むだけではありません。立場によっていくつかの活用方法があります。また、企業としては、意見や感想を返してもらったことが次のアクションのヒントになります。社会を少しずつ変えていくために、「活用」という視点を持ってみてはいかがでしょうかでしょう。

誰でも参加できる社会活動

業績・経営戦略

投資の参考

報告書を読んだら、その企業へ意見・感想を届けましょう。ほとんどの報告書には、読者アンケートが差し込まれているので、記入してFAXまたは郵送します。Webでもアンケートを実施している場合があります。

そのほか、CSR報告書はステークホルダー（利害関係者）との対話を想定した冊子です。読者の声・反応に呼応する仕組みがあるため、その声が大きくなればなるほど企

業の活動がさらに深化していきます。企業は、そういったステークホルダーの声をとても大切に考えているのです。

また、取り組みに共感した企業の製品を購入するという形の応援方法もあります。売り上げが業績を左右するほどになれば、企業は自分のめざす方向性に自信をもち、取り組みがさらに拡がっていくことが期待できます。

このように、市民として消費者として、すぐにも参加できる社会活動があることをぜひ覚えておいてください。

また、すべての人に該当するわけではありませんが、投資家となり応援したい企業の株式を購入するという方法もあります。SRI（社会的責任投資）といわれる投資方法で、欧米の投資家にはメジャーな投資方法となっています。応援したい企業に投資することで、資本面から企業の活動を支えることができます。最近では、こういった側面から投資先を選定するケースが増えています。

学生なら就活に役立てよう

企業研究

就職活動

志望業界が決まって企業研究を行う時、あるいは国内の膨大な企業の中から志望企業を決めかねている時、CSR関連の報告書はとても有益な情報源となります。

それは、報告書がガイドライン※などの指標に基づいて制作されているため、共通の情報が掲載されることで企業を比較することができからです。また、報告書の基本的な目的がステークホルダー（利害関係者）との対話にあるため、業績情報や経営戦略、マインスマス情報まで開示されているうえ、人材育成や人事制度、各種データまで掲載されています。つまり、企業研究にはうってつけというわけです。

単純に、「大手だから」「業績が良いから」「海外展開しているから」などという表面的な理由だけで決めるのではなく、グローバルな社会において、どのような姿勢で事業を行っているのかを知り選択するという視点は、今後さらに必要となるでしょう。同時に、社会活動に力を入れている企業は、そ



※ガイドライン：GRIなどの作成時に参考にする指標のこと。
くわしくはP11参照



企業の取り組みをみてみよう



ここでは企業の取り組みを掲載した、実際の報告書を紹介しています。

冊子は図書館や大学にも送付されています。図書館や就職課で実物を手にしてみてください。

また、企業のWebサイトやCSR図書館.netにも掲載されているので、気軽にWebでも閲覧できます。

QRコードをスマホやタブレットで読みこめば、簡単にアクセスが可能です。

食料品

日本製粉グループの掲げる7つのCSR重要課題ごとに活動を紹介!



【日本製粉株式会社】



日本製粉グループのCSR活動を7つのCSR重要課題ごとに紹介し、ダイジェスト版としてより簡潔にまとめた本冊子。あわせて、詳細な情報が掲載されたWeb版も必見!

食料品

バリューチェーン全体で価値を生み出すエスビー食品



【エスビー食品株式会社】



エスビー食品のバリューチェーン全体でどのように価値を生み出しているかを、事業プロセスごとの具体的な事例とともに、SDGsのゴール、ESGのアイコンを用いて分かりやすく紹介している。

食料品

明治グループは「食と健康」で一步先を行く価値を創り続けます



【明治ホールディングス株式会社】



2018年度から統合報告書を発行。2026ビジョン、価値創造ストーリー、事業別中期経営計画、サステナビリティ等を掲載。特集では「研究・開発」と「安全・安心な品質」を紹介している。

食料品

2019年に創立100周年。次の100年も信頼される企業をめざす



【キューピー株式会社】



創始者の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぐキューピー。社会とともに成長するためのCSRの基本的な考え方と重点課題を表明し、ダイジェストではその課題解決ストーリーを掲載。

食料品

～油を究めて幸せを創る～ おいしさデザイン企業へ



【株式会社J-オイルミルズ】



※画像は昨年度のものです。

油の持つ様々な価値を徹底的に追求し、油の可能性を拡げて「おいしさデザイン企業」を目指すJ-オイルミルズ。中・長期的な企業価値向上と社会課題の解決に向けた様々な取り組みを掲載。

食料品

共創価値 (CSV) の理念を基に「健康・環境・コミュニティ」を推進



【コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社】



事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献することをめざすコカ・コーラボトラーズジャパン。共創価値 (CSV) の理念を基に、「健康・環境・コミュニティ」を推進。

広く地域・社会に貢献し、期待され
信頼されるグローバル企業



【住友ゴム工業株式会社】



特集では「飽くなき技術革新」「世界一の現場力」などについて訴求。グループ報告書は、財務情報や非財務情報を掲載し、非財務情報ではCSRガイドライン（GENKI）の区分ごとに取り組みを紹介。

世界の人びとの“いのち”と
“暮らし”に貢献する旭化成



【旭化成株式会社】



経営戦略・事業概況・経営体制に加え、特集記事として社外取締役対談、研究開発と人財戦略、CSRの取り組みについて記載している。

最先端の技術と確かなサービスで、
夢のある社会の発展に貢献



【東京エレクトロン株式会社】



本レポートでは、東京エレクトロンが果たすべき役割や責任、社会課題の解決につながる活動など、中長期的な企業価値向上および持続可能な社会の発展に向けた取り組みを紹介している。

2018年に創業100周年を迎えた
「限りなき挑戦」を続ける化学メーカー



【カーリットホールディングス株式会社】



自動車の発炎筒やロケットの固体推進薬原料を取り扱うカーリットグループ。「モノづくりを通じたCSR」を軸に8つのCSR活動方針を定め、各方針に推進責任者を設置しCSR活動の推進を図っている。

時代に先駆けた価値創出をめざす
快適環境ソリューショングループ



【文化シャッター株式会社】



「快適環境ソリューショングループ」として、時代に先駆けた価値創出をめざすBXグループ。特集では、社会貢献を見据えた製品づくりについて価値創造の軌跡とステークホルダーの意見を紹介している。

バイオから宇宙まで、幅広い分野で
人と社会に貢献する



【日油株式会社】



日油グループは、バイオから宇宙まで幅広い分野で新しい価値を創造し、人と社会に貢献している。このCSRレポートは、日油グループの環境および社会への貢献活動について、理解を深められる報告書だ。

「熱」を通じて「快適な暮らし」を
社会に提供するリンナイ



【リンナイ株式会社】



当社は創業以来大切にしてきた3つのこだわり（「熱と暮らし」「品質」「現地社会への貢献」）に、「環境」を加えた4つのテーマを掲げ、本業を通じたCSR活動をグループ全体で推進している。

機械

創業165年。IHIは技術をもって
社会の発展に貢献します



【株式会社IHI】



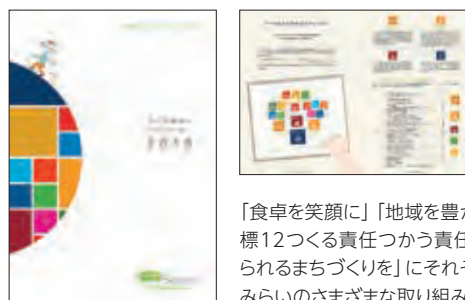
総合重工メーカーの総合力をもって取り組む、「事業を通じた社会課題の解決」を特集。事業を支える基盤であるESGの活動との両輪によって、将来にわたる持続的な社会価値の創造を表現している。

卸売業

食卓を豊かに、地域を豊かに。
誰からも頼られる生協へ



【生活協同組合コープみらい】



「食卓を笑顔に」「地域を豊かに」を、SDGsの「目標12 つくる責任つかう責任」「目標11 住み続けられるまちづくりを」にそれぞれ関連付け、コープみらいのさまざまな取り組みを紹介している。

卸売業

「人間貢献・社会貢献」の実現を目指し、
さらに成長するモスグループ



【株式会社モスフードサービス】



「人間貢献・社会貢献」の実現を目指し、創業45周年を迎えたモスグループ。さらに成長していく企業になるための取り組み「モスバーガー全店が飲食店初のエコマーク認定を取得」などを特集。

機械

燃焼技術を核として、環境・
エネルギーの分野で貢献する企業



【株式会社タクマ】



タクマは燃焼技術を核として、ごみ処理や水処理の技術など様々な技術を生み出している。本書では、環境、エネルギーの分野で新たな価値を創造し、事業を通じた取り組みを報告している。



建設業

サステナブルな社会の実現へと
挑戦する安藤ハザマ



【安藤・ハザマ】



巻頭では新社長のCSRに対する考えと新中期経営計画を紹介。「CSR報告書」から「サステナビリティレポート」に刷新し、CSR活動への強化姿勢を示すとともに、長期的な視点に立つ安藤ハザマのCSRに対する考え方や取り組みを、SDGsと絡めて説明。

建設業

多様性の活用を推進し、
持続可能な社会の実現に貢献



【コムシスホールディングス株式会社】



「COMSYS Group CSR REPORT 2018」は、コムシスグループのCSR（企業の社会的責任）に関する考え方と活動状況を、ステークホルダーに分かりやすく報告している冊子。また、幅広く意見を求め、活動と開示の充実を図ることを目的として発行している。

サービス業

エクセレント・カンパニーをめざし、挑戦し続けるクレハ。



【株式会社クレハ】



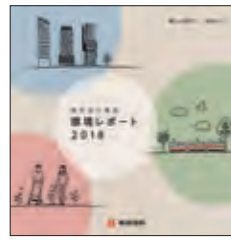
クレハは中期経営目標として「CSR経営の推進」を掲げている。報告書では、グループの価値創造や、特集として社会的な課題解決の視点から主要製品の提供する解決策を紹介している。

陸運業

東急電鉄のサステナブルな経営



【東京急行電鉄株式会社】



本レポートでは「Make the Sustainable Growth」(持続可能な成長をめざして)というスローガンのもと、経営トップのメッセージ、3つの基本方針に基づいた環境の取り組みのほか、グループの取り組みなどを紹介。

サービス業

変わりゆく社会に、変わらぬ安心を。変わり続けるセコム



【セコム株式会社】



「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念に基づくセコムのCSRを「特集」、「社会課題を解決する戦略的CSR」、「信頼構築のための基盤的CSR」という3つの切り口からまとめている。

陸運業

グローバルロジスティクス企業 日本通運グループ



【日本通運株式会社】



事業の根幹である「安全・品質」を中心に、様々な企業活動を担当者の声とともに、結果だけでなく目標やプロセスもあわせて紹介。将来に向け社外有識者からの期待や提言、SDGsも取り上げている。

サービス業

～地域をつなぎ、地域とつながる～ NEXCO東日本の地域と連携したCSR



【東日本高速道路株式会社】



NEXCO 東日本レポート2018

NEXCO 東日本グループの高速道路事業や、高速道路事業を通じた社会の持続的な発展へ向けての取り組みをはじめ、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードにすすめているCSR活動を紹介。



CSR BOOK

高速道路事業を活かしたCSR活動の3つの重要課題「地域社会の活性化」、「交通安全の推進」、「環境保全」の取り組みをSDGsとともにコンパクトにまとめ、わかりやすく伝えている。

陸運業

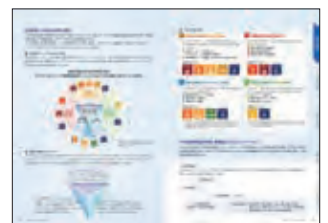
SDGsの達成に貢献するCSR注力分野を策定し、CSRと経営の融合へ



【株式会社日立物流】



CSR報告とアニュアルレポートを合本化したレポート。「安全」「環境」などのCSR活動の他、中期経営計画や「事故ゼロ」社会を目指した共同研究、CSR注力分野とSDGsとの関連性についても説明している。





【IIRC】

International Integrated Reporting Council (国際統合報告委員会)。2010年に、国際的な新たなディスクロージャー (統合報告レポート) のフレームワークを開発するために設立された。2013年12月、国際統合報告フレームワーク (IIRCフレームワーク) を公表

【ISO14001】

国際標準化機構 (ISO) による環境マネジメントシステムの規格。組織の活動・製品およびサービスによって生じる環境への影響を持続的に改善するためのシステムを構築し、そのシステムを継続的に改善していくPDCAサイクルを構築することが要求されている

【ISO26000】

国際標準化機構 (ISO) が、組織の社会的責任に関して検討しているガイドライン規格。社会的責任の7つの原則を行動規範とし、7つの中核主題が提示されている

【ISO9001】

国際標準化機構 (ISO) による品質マネジメントシステムの規格。製品やサービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現する

【ESG】

Environment Social Governance。日本語では「環境・社会・ガバナンス (企業統治)」。ESG投資として、投資の新たな評価項目としても注目されていて、企業にはESG情報の開示が求められている

【SASB】

Sustainability Accounting Standards Board (米国サステナビリティ会計基準審議会)。連邦会計基準審議会のサステナビリティ版の開示促進を目指すもので、10のセクター、89の産業について独自に非財務情報の開示基準を作る作業を手掛けている

【SDGs】

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)。2001年に策定されたミレニアム開発目標の後継として国連で定められた、2016年から2030年までの国際目標。新たに17ゴール・169ターゲットからなる

【SRI】

社会的責任投資。企業投資の際、財務面だけでなく環境や社会への対応なども考慮して投資先を決定する投資手法

【FSC】

Forest Stewardship Council (森林管理協議会)。木材を生産する世界の森林と、その森林から切り出された木材の流通や加工のプロセスを認証する国際機関。この認証は、森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなう、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられる

【オクトパスモデル】

IIRC (国際統合報告評議会) のフレームワークで表現される、組織の「価値創造プロセス」の全体像

【ガイドライン対照表】

GRIやISO26000などのガイドラインを指標とし報告書制作した際、そのガイドラインと掲載ページを対照している表のこと

【環境会計】

事業活動で環境保全にかかったコストと、その活動から得た効果を定量的に把握すること

【グリーン調達】

環境負荷の低い物品・サービスを優先調達したり、有害化学物質の不使用や削減をめざし、環境への影響が少ない製品を優先的に購入すること

【グローバル・コンパクト】

1999年1月に開催された「世界経済フォーラム年次総会」

(ダボス会議)において、当時の国連アナン事務総長が提唱したもの。企業が社会のよき一員として行動するよう促し、持続可能な成長の実現をめざす取り組み。グローバル・コンパクトに参加する企業に対し、人権・労働権・環境・腐敗防止に関する10原則を遵守し、実践するよう要請している

【コーポレートガバナンス】

企業統治。経営の効率性や経営の公正さをチェックする仕組み。マネジメント (運営)、内部統制 (内部管理・監督)、監査 (内部監査・外部監査) など

【コーポレート・ガバナンスコード】

「コーポレートガバナンス (企業統治)」の強化を、官民あわせて実行する上での規範。「コード」は規則を意味するが、規則の規定集ではなく原則を示したものの。2015年6月から適用

【COP】

Conference of the Parties (国連気候変動枠組条約締約国会議)。1997年「京都議定書」で2020年までの目標が定められた。2015年のCOP21では、2020年以降の新たな枠組みを示す「パリ協定」が採択された

【コンプライアンス】

法令遵守。法律や規則などに違反せず、遵守すること

【サプライチェーン】

原料調達から供給活動 (開発・調達・生産・輸送・保管・販売) における全プロセスのつながり。サプライチェーンの環境配慮が進むことで、産業全体の環境配慮を進める効果が期待されている

【CSV (共有価値の創造)】

Creating Shared Value (共有価値の創造)。社会問題の解決と企業利益の向上を両立させ、社会的価値と経済的価値の両立による共通の価値を創り出すという概念や取り組みのこと。2011年にハーバード大学のマイケル・E・ポーター教授が提唱した

【GRI】

Global Reporting Initiative。オランダに本部を置く国際機関で、サステナビリティ (持続可能性) 報告書制作のための国際的なガイドラインを発行している。2016年10月、新たな規準「GRIスタンダード」を発表。モジュール化という新たな体裁で構成されている。

【重点課題】

企業ごとに、それぞれ関連する課題にフォーカスして戦略を決定・報告するために設定されるもの。マテリアリティともいう。IIRC、SASB、およびGRIで捉え方に違いがある

【ステークホルダー】

企業を取り巻く利害関係者。株主、社員、取引先、お客様、監督官庁、金融機関、地域社会など多岐にわたる

【ステークホルダーダイアログ】

多様なステークホルダーと企業が対話をする。持続可能な社会の構築に向け、その意見を経営に反映させることが求められる

【3R】

廃棄物削減に対する考え方で、リデュース (減らす)、リユース (繰り返し使う)、リサイクル (再資源化) の3つの頭文字からつくられた言葉

【生物多様性】

生物の様々な姿・形・生活様式などを総合的に指す概念で、ハーバード大学の教授エドワード・O・ウィルソンが1988年に造語。生態系の多様性、種の多様性、遺伝的多様性の3つの階層で捉えられ、それぞれの保全が必要とされている

【第三者意見】

報告書の客観性を担保するために掲載される、外部有識者のコメント

【第三者監査】

外部監査の方法のひとつで、商業上、契約上独立した機関による審査のこと。通常、マネジメントシステム規格の認証機関による審査を指す。組織のマネジメントシステムが、指定された規格に従って文書化され、実行されているかを審査

【知的財産】

無形のもの、特に思索による成果・業績を認め、その表現や技術などの功績と権益を保護するために与えられる財産権のこと。発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物、商標・商号、営業秘密、有用な技術上・営業上の情報などが該当する

【DJSI】

Dow Jones Sustainability indexの略語。スイスの投資運用およびアドバイスカ社であるRobecoSAMが、米国ダウ・ジョーンズと共同で1999年に開発した株式指数のこと。投資信託会社等がSRIファンドなどを設定する際のベンチマークとして幅広く利用されている

【トリプルボトムライン】

経済 (財務) 的側面だけではなく、環境の側面、社会的側面を視野に入れ、環境や社会のサステナビリティ (持続可能性) を高める、という考え方

【内部統制】

業務の有効性・効率性、財務諸表の信頼性、関連法規の遵守、資産の保全を達成するために、その組織の内部において適用されるルールや業務プロセスを整備し運用すること。またその結果確立されたシステムのこと

【日本版スチュワードシップ・コード】

英国スチュワードシップ・コードを参考に、2014年2月金融庁によって制定された「責任ある機関投資家」の諸原則のこと。機関投資家が投資先企業に対し、建設的な対話 (エンゲージメント) を行うことを通じ、企業価値の向上や持続的成長を促すもの。最終受益者の中長期投資リターンの拡大を図っている

【バウンダリ】

意味は境界線。GRIガイドラインG4で「特定されたマテリアルな側面とバウンダリ」として求められているもの。自社にとって重要な課題が、組織内・組織外のどこで影響を及ぼしているのかを開示することを意味する

【バリューチェーン】

価値連鎖。プロセスごとに価値 (バリュー) を付加し、連鎖の総体によって結果、最終消費者へ価値を提供し、企業もまた利益を得る考え方

【PDCAサイクル】

管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する

【マテリアルバランス】

企業の事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量 (インプット) と、その活動に伴って発生した製品および環境負荷物質 (アウトプット) をあわわしたもの

【モーダルシフト】

貨物の輸送手段を、より環境負荷の小さい輸送手段に転換すること。モーダルシフトを進めることにより、CO2排出量が抑制されるほか、省エネ、環境汚染物質の排出抑制、道路の渋滞緩和にもつながる

【リスクマネジメント】

企業経営には製造物責任、機密漏洩、災害リスク、戦争、内乱、為替変動、情報漏洩・顧客情報漏洩など、数多くのリスクが潜んでいる。こういったリスクの発生を未然に防ぐよう努力し、リスクが実際に発生した時は被害を最小限にとどめる施策

CSR図書館.netで報告書を読もう!

667社4,231冊の報告書を掲載中!



Webで

Webで報告書を読むなら、CSR図書館.netがおすすめ!

約660社4200冊の報告書が掲載されていて検索機能も充実しているから、読みたいジャンルや気になる言葉で報告書が検索できます。これはと思った報告書を、実際に取り寄せることも可能です。『報告書請求』から、無料で冊子を請求しましょう。

今すぐ検索!



CSR図書館

検索

<http://csr-toshokan.net/>

図書館で



CSR図書館.netでは、報告書を全国の図書館・大学に寄贈しています。ぜひ、探してみてください。

413カ所
国公立図書館
一式

998カ所
学校付属図書館
大学795+短大143
+高専22

839カ所
学校就職課
大学670+
短大169

22カ所
NPO・社団法人等
(発送代行費は無料)

CSRご担当者さま



社内外へのCSR広報でお悩みではありませんか?
CSR・環境活動に長年携わる、当社独自の広報メニューをぜひご活用ください。
(現在664社の企業さまがご利用中)

1

図書館寄贈
サービス

2

CSR Web
アンケート
サービス

3

CSR広報による
効果的な
企業ブランディングを
ご提案

アフリカンアートでCSR!

アフリカンアートTINGATINGAでオリジナル商品やノベルティをつくりませんか? グローバルな社会活動に手軽に参加できます。

ポップで目をひく
デザイン!

くわしくは
こちらから

<https://www.brains-network.com/service/africa.php>

アフリカンアート

「TINGA TINGA」
について

ティンガティンガは、タンザニア発のアフリカを代表するポップアートです。創始者エドワード・サイディ・ティンガティンガの名に由来しており、工房には約100人のアーティストが所属しています。私たち「一般社団法人アフリカンアート支援機構」は、このアートを通じてタンザニアの地場産業を応援し、雇用をつくることを目的としています。企業や団体により支援のカチはさまざまです。ご希望に沿った企画をご提案いたしますので、まずはお気軽にご相談ください。

一般社団法人 アフリカンアート支援機構

「エコ&社会活動情報誌」の掲載内容について
掲載内容については、細心の注意を払い制作していますが、万一、記載内容と実態に著しい差がある場合は、右記までご連絡ください。

お問い合わせ ● 株式会社ブレインズ・ネットワーク CSR広報事業部 CSR図書館.net 担当宛て

TEL: 03-3267-8711 (平日9時~18時) FAX: 03-3267-8714 Mail: contact@csr-toshokan.net<https://www.facebook.com/CSRtoshokan> <https://twitter.com/CSRtoshokan>

印刷 ● 日経印刷株式会社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5 ☎ 03-6758-1001